

Romain Gauthier

THE EVOLUTION OF TRADITION

C by Romain Gauthier Carbonium Edition C by ローマン・ゴティエ カーボニウム エディション

精緻な技術、軽量、そして堅牢さを融合した C by ローマン・ゴティエが、カーボニウム®によってさらにハイテクでスポーティな次元へと進化しました。インサイト・マイクロローターと同様に、ケース、リューズ、バックルにカーボニウム®を採用することによって、グレード 5 チタン製ムーブメント搭載の個性的な時計がさらに軽量化しています。このカーボニウムエディションは、世界のローマン・ゴティエ サロン限定モデルのため、日本国内では東京・銀座にある〈ローマン・ゴティエ GINZA サロン〉でのみ購入できる特別なモデルです。

2021 年発表の C by ローマン・ゴティエ キャリバーは、16 年以上にわたるブランドと時計製造の発展を通して得られたノウハウの結晶であると同時に、ローマン本人の自由な創造力を若い現代的なデザインで表現しています。

製作の過程でローマンにとって明確だったのは、ケースとムーブメントは調和しなくてはならない、しかも現代的で無駄のないデザインであるべきということでした。設計の際は快適さや人間工学、素材の選択を十分に考慮し、ムーブメント素材にはグレード 5 チタンを採用しました。このエディションではサファイア製のダイヤルを採用していますが、これまでのコレクション同様に、時刻表示の円がどれも簡潔していないことから、製品全体に統一感を与え、「連続性」の意味を思い出させます。

カーボニウムエディションは C by ローマン・ゴティエの技術面を新たな次元に引き上げました。航空宇宙製品グレードの、繊維を原料とした最先端の炭素複合素材であるカーボニウム®は、軽量で力学的な強度に優れ、ダイナミックな繊維模様が目を惹きます。

カーボニウム®は視覚的な魅力を超えて、C by ローマン・ゴティエの技術的な個性を強くアピールします。繊維含有量が高く、剛性に優れるカーボニウム®は軽さと強さを高次元で両立し、驚くほど軽量でありながら、卓越した堅牢性を備えています。

時計内部を見ると、自社製の手巻きムーブメントには、細部までこだわった手作業の仕上げ、精度を極めた設計や合理的な構造などローマン・ゴティエの高級時計製造の技をすべて見ることができ、そこには、大胆で先進的な美しさが含まれています。こうして、伝統と最新技術、職人技と斬新さを結び付けた時計が完成しました。

Romain Gauthier

THE EVOLUTION OF TRADITION

C by ローマン・ゴティエ カーボニウムエディションの詳細

高性能なハイテク素材：カーボニウム®

カーボニウム®は高性能のハイテク炭素繊維複合素材で、フランスの企業 Lavoisier Composites/ラヴォアジエ・コンポジットによって、旅客機の翼や尾翼、胴体の一部となるはずだった繊維、つまり航空宇宙産業で使用されるプリプレグテープに含まれていたエポキシ樹脂とカーボンファイバーを「アップサイクル」するため、特殊な圧縮成形プロセスを用いて製造されています。

このモデルに用いられるカーボニウム®製パーツの製造にあたり、ラヴォアジエ・コンポジットは、まずカーボニウム®のモノブロックを製作し、その後5軸からなる高精度CNC工作機械を用いて精密に削り出し、さらにマット仕上げを施すことで、わずかにシルキーな質感の表面に仕上げています。またローマン・ゴティエの意向に基づき、ラヴォアジエは繊維の長さを50mmに設定しています。成形性・美観・素材特性のバランスにおいて、最適と考えられるのがこの長さだと判断しました。

カーボニウム®に含有される炭素繊維は、実にチタンの3倍の硬度を持ちながら、重量面では半分という軽量性を特徴とします。そのため、この新しいC by ローマン・ゴティエ カーボニウムエディションは、ブレスレットやバックルを含めてもわずか43gです。手首で羽のように感じるといっても過言ではないでしょう。

一部をオープンワークに仕上げたダイヤル

C by ローマン・ゴティエの新しいエディションの特徴である、ブラックとクロームメタリック仕上げのサファイア製ダイヤルは、ピクセレーション（点で構成された装飾）によってカーボニウム®の構造を模様で再現しています。

そして、一部オープンワークになっているダイヤルからはチタン製ムーブメントの一部を見ることができ、手首に着けたままでも手作業による緻密な仕上げを楽しむことができます。オープンワークから見える複雑なムーブメント部品は、時計製造においてローマン・ゴティエがこだわる精緻な設計や芸術的な職人技を示しています。このデザインによって、透明感と構造美が魅力的な相互作用を生み出し、この時計を技術と美しさの両面において真の傑作へと昇華させています。

Romain Gauthier

THE EVOLUTION OF TRADITION

最も注目すべきは秒針機構（4 番車）です。これは機械的な意味だけでなく、ブランド独自の美的シンボルでもあり、形状と開口部がローマン・ゴティエ特有のデザインを持つ歯車です。サークル状模様の装飾とポリッシュ仕上げの面取りを見ると、それぞれの部品の仕上げがいかに念入りに施されたかを証明しています。

ダイヤルの開口部からはガンギ車、テンプ、アングルからなる脱進機が見え、そしてダイヤルのすぐ下に見えるブリッジに、特徴的な模様のカーボニウム®のパーツをはめ込む装飾加工によって、この時計の自己主張をより強めています。

ダイヤル側のオープンワークとケースバックからもムーブメントを見えるようにすることによって、ローマン・ゴティエはこのキャリバーの心臓部に光を当て、新たな次元での時計の視覚的効果を実現しました。光のコントラストと揺らぎのおかげでグレード 5 チタン製ムーブメントに命を吹き込んでいます。

C by ローマン・ゴティエのダイヤルは現代性と連続性を象徴しています。それは設計とデザイン両面においてです。時分針がオフセンターダイヤルで、インデックスは実にわずかですが徐々に細くなるようにテーパーにデザインされ、しかもそれぞれの長さが異なっています。また、7 時位置にあるスモールセコンドの 5 秒毎の目盛も、インデックス同様にそれぞれ長さが違っておりラインの先端が細くなっています。

ローマンは、ダイヤルになぜこのような凝った見え方を持たせたのか、その目的を説明しています。「時計を製造する中でよく見るような『囲まれて閉じた円形』より、開かれて風通しのよさを感じるダイヤルにしたいと思っていました。ダイヤル上でインデックスを伸ばしたラインは軸に向かって徐々に細くなり、やがてほとんど見えにくいくらいの点になるというイメージです。これこそ「連続性」という考えを強調しています。」

サファイア製ダイヤルにはカーボニウム®の模様を再現することによって、時計全体に調和をもたらし、作品の DNA を強調しています。

針はグレード 5 チタン製で高い視認性を確保するためにスーパールミノバを塗布しています。数字やアプライドアワーマーカーはスーパールミノバのモノブロック構造で視認性を高め、また時計のモダンな雰囲気をさらに強調しています。

インデックスと数字は、基本色のホワイト、グリーン、ブルー、イエロー、オレンジから選ぶことができますが、特別なご要望に応じて他の色を開発することもできます。リューズ表面とピンバックルに刻印された RG ロゴは、インデックスや数字とコーディネートされ、ストラップの色に合わせる事が可能です。

Romain Gauthier

THE EVOLUTION OF TRADITION

目を惹きつけるカーボニウム®ケース

ベゼル

カーボニウム®製ベゼルはまずラウンドシェイプに機械加工され、丸みのある面が作られます。次にベゼル表面の6か所にまっすぐなカットを入れて、平らな6つのファセットを生み出します。これと同様のファセット加工は時計裏面のサファイアアクリスタルの周囲にも再現されています。

ケースバンドとラグ

ベゼルとケースバックの間にはワンピース構造のケースバンドとラグが幾何学的に作られており、巧みに生み出されたフォルムの美しさを楽しむことができます。

リューズ

さらにC by ローマン・ゴティエの他のエディション同様に、2時位置に巻上げと時刻設定の役割を持つリューズを配置し、手首の動きを妨げないようなスペースを工夫しています。また、操作しやすいようにリューズはフルテッド（溝彫り）加工を施し、ケースデザインの一部としても目を惹く美しさに仕上げられています。

スネイルカムを採用した賢いストップセコンド機構

ローマンがC by ローマン・ゴティエに搭載したストップセコンド機構によって時刻を正確にセットすることができます。

その仕組みは他の多くのストップセコンド機能と同様に、リューズを引いた瞬間、テンプ（テンワ）にブレーキをかけるというものです。しかしローマンは動きを止めるために、ストレートあるいはL字型のストップレバーを使わずに、スネイルカムを採用することを選択しました。これには2つの機能を持たせています。まずリューズを引くとスネイルカムがテンワに触れてその動きを止めます。次にリューズを押し戻した時に、スネイルカムが止めた位置から回転しますが、カムの段々と広がるフォルムが回転することによって、再びテンワが勢いよく動き始めるための助けとなります。

ブランドに親しむ方たちであれば、ローマンが過去の作品でスネイルカムのユニークな形状を使ってきたことをご存知でしょう：そうです、高い評価を受けたロジカル・ワンで見ることができます

。

Romain Gauthier

THE EVOLUTION OF TRADITION

設計と装飾が現代性と出会う自社製ムーブメント

手巻きの自社製ムーブメントに受け継がれた現代性と連続性というテーマが、ケースバックのディスプレイを通して見事に表れています。

主役はフィンガーブリッジです。これはローマンの生まれ故郷、ジュウ溪谷の時計製造の歴史では代表的なものですが、この時計で現代的に解釈されています。これらのブリッジはそれぞれ水平に構成されており、「階段状」の形を成しています。この効果はムーブメントにボリューム感と奥行をもたらすだけでなく、ブリッジが文字通り歯車やテンプの上で、切れ目なく流れているような感覚を与えます。

ブリッジの外側のエッジは二重の面取りが特徴的です。また、ブリッジのフラット面とルビー周り是一段高く縁取りされておりヘアライン加工が施されています。ブリッジ表面の内側には、カーボニウム®のブロックをはめ込み、ケースバックにおいても個性を強めるとともに、時計全体に調和を生み出しています。

印象的な装飾はブリッジやメインプレートだけに留まりません。ローマンのトレードマークである、面取り加工されたリングを繋げた形状のスポークが特徴の歯車やラチェットホイールには円形模様の装飾（サーキュラー・グレイニング）が施され、クリックやスネイルカム、ローマンのもうひとつの特長でもある S 字型の溝を持つスクリューは美しいポリッシュ仕上げで磨かれています。また、主ゼンマイを収めた香箱の蓋は素晴らしい渦巻状の模様（スネイリング）で装飾されています。

C by ローマン・ゴティエの调速機構は、わずかにカーブしたアームを持つテンワ、極小の目盛が付いた偏心の補正ねじ、最大剛性のために三角形になったアングルを手で組み立てており、ローマン・ゴティエらしい特徴を備えています。

ラバーストラップとカーボニウム®製ピンバックル

C by ローマン・ゴティエ カーボニウムエディションは、快適さ、技術的洗練、そして調和の取れた美しさを兼ね備えるように設計された高品質ラバーストラップで、その個性をさらに際立たせています。表面のテクスチャはカーボニウム®の模様とさりげなく合わせており、ケース素材とストラップとの間に視覚的な一体感をもたらしています。このような質感の連続性が時計のアイデンティティを強め、あらゆるディテールはモデルの斬新さや現代的な精神を伝えるために考えられています。

Romain Gauthier

THE EVOLUTION OF TRADITION

ストラップの色はインデックスの色と合わせることができ、オーナーはカスタマイズしたご自身の時計で洗練されたコントラストを楽しむことができます。色の調和に対する緻密なこだわりは細部にまで及び、RG ロゴがバックルやリュースに精巧に刻印されています。

カーボニウム®製ピンバックルは全体のデザインの中でシームレスに組み込まれています。角度をつけたラグと丸みをつけたケースバンドからストラップが続き、まるでひとつの型から時計とストラップを削り出したように滑らかで自然に繋がっているような感覚を生み出しています。この人間工学的なデザインのおかげで手首での快適な装着感を最大限に実現し、カーボニウムエディションの技術的かつ彫刻のような個性を際立たせています。

技術仕様

カーボニウムエディション

カーボニウム®製／ローマン・ゴティエサロン限定モデル

*日本国内取扱い店：ローマン・ゴティエ GINZA サロン（日新堂銀座本店内）

リファレンス

- ホワイトのアクセント：MON00561
- イエローのアクセント：MON00564
- グリーンのアクセント：MON00565
- ブルーのアクセント：MON00566
- オレンジのアクセント：MON00567

特徴

オフセンターの時針、分針、7時位置のスモールセコンド

カーボニウム®製ケース、リュース、ピンバックル

一部オープンワークのダイヤル（カーボニウム®模様をデザイン）

グレード5チタン製の自社製ムーブメント／ストップセコンド機構

ラバーストラップ

ダイヤルと針

一部オープンワークのダイヤル（カーボニウム®模様をデザイン）

オフセンターの時針、分針

7時位置のスモールセコンド／5秒毎にテーパーライン入り

スーパーミノバを塗布した、グレード5チタン製の針

スーパーミノバ製モノブロックから製造された数字とバーインデックス

Romain Gauthier

THE EVOLUTION OF TRADITION

ムーブメントと仕上げ

自社製手巻ムーブメント

サイズ：32.10mm×5.50mm

60 時間パワーリザーブ

24 石

部品数：154 個

振動数：毎時 28,800 回/4Hz

部品素材：チタン、真鍮、カーボニウム®、スチール、ステンレススチール
ジャーマンシルバー（洋銀）

仕上げ：最高級レベルの手作業による装飾

ブリッジ：カーボニウム®のはめ込みによる装飾

仕上げ：ナチュラルチタン製ブリッジとロジウム仕上げの歯車

ケース

素材：カーボニウム®

サイズ：41.5mm×9.6mm、ラグからラグまでのサイズ 50.4mm

防水性：30m/3 気圧/100 フィート

巻上げと時刻セットのためのリュース（2 時位置/フルテッド加工）

内側に無反射コーティング加工のサファイアクリスタル（ダイヤル側、ケースバックともに）

ストラップとバックル

グレーのラバー製ストラップ（カラーはご要望に応じて）

カーボニウム®製ピンバックル

総重量：43g（ラバーストラップとカーボニウム®製ピンバックル含む）

小売価格：12,320,000 円（税込）

www.romaingauthier.jp

ローマン・ゴティエ日本総輸入代理店

スイスプライムブランド株式会社

〒104-0045

東京都中央区築地 2-15-19 ミレニアム築地ビル 8F

03-6226-4650

Romain Gauthier

THE EVOLUTION OF TRADITION

画像データは下記アドレスからダウンロードできます。

<https://www.dropbox.com/scl/fo/9kma2cmtqoft5htgx85lw/AN6c-GcJxWejYeES760MJ6Y?rlkey=nm513c1togh98u1h67zwc9wa5&dl=0>

ローマン・ゴティエ プロフィール

ブランドとしてのローマン・ゴティエ

2005年に創業されたローマン・ゴティエはスイスのジュウ渓谷にベースを置く高級時計ブランドで、情熱的な創業者ローマン・ゴティエが率いています。彼はスイス高級時計製造の中心地でもある、絵画のように美しいジュウ渓谷で育ち、勉強や仕事をする中で育んできたノウハウと、比類なきタイムピースを生み出すためにオート・オルロジュリーへの妥協なき取り組みを結びつけました。

ローマン・ゴティエの時計は、美しさと技術のいずれにおいても他とは違うアプローチをしています。工業化されておらず、時計製造の意義や視覚的な重要性の点から見ても妥協を許しません。それぞれの職人技術において卓越性を求めており、製造に時間的な制約を設けていません。

彼のビジョンは、技術の向上によって豊かな伝統と専門的な技法を守りながら、新しい領域を探求することです。時計職人たちはこの遺産に責任を持つべきで、ローマンはこのような進化に携わることが誇りに思い、今得られる中で最良のものを活用していきたいと考えています。これこそ、彼が考える「進化する伝統」です。

ローマン・ゴティエの時計はどれも高いレベルの手仕上げによって他にはない独自の存在となっています。ムーブメントについては、小さな歯車の製造から全体の組み立てや調整に至るまでの全ての工程、さらにブリッジや地板の面取りや装飾、ダイヤルのエナメル加工まで自社ですべて行っています。

全体的に見て、ローマン・ゴティエの時計は何か月もかけて部品を作り出し、数週間かけて装飾を施し、組み立てには何時間もかかる作業を経て完成します。「時」がキーワードであり、すべての職人が要求される高いレベルのクオリティに達するためには、十分な時間をかけなければなりません。

卓越性の鍵は人間の能力だとローマンは考えています。21世紀という時代が提供できる資源は

Romain Gauthier

THE EVOLUTION OF TRADITION

道具だけで、それは技術の進化の一部に過ぎません。ローマンの哲学は、十分な時間をかけて訓練や改良を重ねることによって、専門的な技能を獲得した人がもたらすことのできるクオリティがいかに重要なのかを強調しています。

この結果、彼の作品は目を惹くデザイン、革新的な自社製ムーブメントと手作業によるハイレベルの仕上げによって認められています。2013年には時計業界のオスカーと呼ばれるジュネーブ・ウォッチメイキング・グランプリにおいて、ローマン・ゴティエのロジカル・ワンがメンズコンプリケーション部門において最優秀賞を獲得しました。さらに2018年にはパリで開催される<Les Talents du Luxe et de la Création>において“Talent of Innovation”賞を受賞しました。

ブランド創業者

ローマン・ゴティエは1975年スイスのジュウ渓谷、スイス高級時計製造発祥の地で生まれ、ここで伝統的なオート・オルロジュリーへの情熱を育み、機械学とエンジニアを習得、デザインへの造詣を深めました。

技術専門学校で精密工学を学んだ後、ローマンは1997年に精密機械の設計者としての資格を取得。1年後に時計の部品メーカーで機械プログラマー兼オペレーターとして働き始め、この会社が後にヨーロッパで最もパフォーマンスのよい施設の一つへと変わるのに貢献しました。

時計だけでなく、自らの高級時計ブランドを一から作ることを決意したローマンは2002年にMBAを取得、最終論文は自分自身の時計会社設立に対するビジネスプランがテーマでした。

3年間、非公開で自分の時計の製造に取り組んだあと、2005年満を持してローマン・ゴティエブランドを立ち上げ、バーゼルワールド2007で初の作品プレスステージHMを発表しました。この後、プレスステージHMS(2010)、ロジカル・ワン(2013)、ロジカル・ワン シークレット(2014)、インサイト・マイクロローター(2017)、インサイト・マイクロローター レディ(2018)、インサイト・マイクロローター スケルトン(2020)、そしてC by ローマン・ゴティエ(2021)と続いています。これらの作品には洗練された伝統的な時計、現代に合わせたカジュアルな創作、そして極めて優美なオブジェダールなどすべてが含まれており、そのすべてが素晴らしい仕上げの自社製ムーブメントを搭載しています。

ローマン・ゴティエ自社工場

Romain Gauthier

THE EVOLUTION OF TRADITION

2014年に完成した自社工場は、常にローマンの目的でもあった自由な創造性を守るための重要な拠点となりました。素晴らしいローマン・ゴティエウォッチの生産能力のほとんどがスイス、ル・サンティエにローマンが着実に築き上げた工房のおかげです。

自社工場は、2025年さらに拡張されブランドの根幹をなすムーブメント開発から製造、そして時計愛好家の方たちをもてなすスペースと合わせて、ローマン・ゴティエの時計製造のすべてが誕生する原点となっています。

その強みは、自社製キャリバーの製造に一切妥協せずに取り組むことができるということです。専有の素材、道具や機械、そして最も重要である独自のサヴォアフェールを有する彼の優れたチームによって品質は守られています。これによってローマン・ゴティエはブランドの時計のために自社製ムーブメントの設計、製造、装飾、組み立て、そして調整まですべてを行うことができます。さらには自社の窯でグランフーエナメルダイヤルも作ることも可能にしました。

卓越性の鍵は人間の能力だとローマンは考えています。21世紀という時代が道具という資源を提供できますが、それは技術進化の一部に過ぎません。ローマンの哲学は、専門的な技能の獲得に十分な時間をかけて訓練や改良をすることによって、人がもたらすことのできるクオリティがいかに重要なのかを強調しています。